

**PRESS RELEASE (2026/07/22)****都市部の街路樹から外来種のヒメヨコバイを発見****ポイント**

- ① ヒメヨコバイは植物の葉緑体を吸汁することで葉を黄化・萎縮させ、緑化樹や農作物の害虫となる種が含まれるグループである。近年国内外で外来種が増加している。
- ② 日本新記録種（※1）のヒメヨコバイを4種発見し、このうち福岡市の街路樹と東京都の公園木で見つかった種はそれぞれ外来種であることが示唆された。

**概要**

ヒメヨコバイはカメムシ目頸吻亜目（※2）ヨコバイ科に属する2-5mmほどの昆虫です。ストローク状の口器で植物の葉緑体を吸汁し、葉を黄化・萎縮させます。街路樹や農作物の害虫として知られる種も多く存在し、近年では国内外で外来種も増えています。

九州大学大学院生物資源環境科学府博士課程の上原 友太郎、同農学研究院の大原 直通博士（テクニカルスタッフ）および北海道教育大学旭川校の奥寺 繁准教授らの研究グループは、これまでの国内各地における継続的な野外調査を通して、4種の日本新記録種を発見し、このうち、エンジュヒメヨコバイ *Nikkotettix cuspidata* とケヤキヒメヨコバイ *Tautoneura polymitusa* の2種が外来種であることが示唆されました。

中国および韓国で知られていたエンジュヒメヨコバイは福岡市早良区・中央区において街路樹のエンジュで発生しているのが2023年に初めて確認されました。エンジュは中国原産の移入植物であり、中国からのエンジュ生木の輸入が2017年以降急増したことなどから外来種と判断されました。

さらに、韓国原産で近年ヨーロッパ各地に侵入しているケヤキヒメヨコバイは東京都練馬区・杉並区において公園木のケヤキで発生しているのが発見されました。海外ではケヤキを含む様々なニレ科植物から確認されているにもかかわらず、都市部公園のケヤキでのみ採集されたことなどから外来種であることが示唆されました。

本研究成果はニュージーランドの雑誌「Zootaxa」に2026年5月20日（水）（現地時間）に掲載されました。



**写真：今回発見した日本新記録種の4種**

左から ヤチダモミドリヒメヨコバイ、エンジュヒメヨコバイ、ケヤキヒメヨコバイ、ニセウスグロヒメヨコバイ

**研究者からひとこと：**

頸吻亜目昆虫にはチュウゴクアミガサハゴロモやシタベニハゴロモなど近年世界中で外来種と考えられる種が多く報告されており、一部の種は農作物や緑化樹に甚大な被害をもたらす害虫として問題視されています。今回発表した種を含め、国内でも侵入例は数多くあり、まだ気づいていないだけで同様な例もあると思われるので、今後も継続的な調査を行い、動向を注視していきたいと考えています。（上原友太郎）

### 【研究の背景と経緯】

ヒメヨコバイはカメムシ目頸吻亜目ヨコバイ科に属する2-5mmほどの昆虫です。ストロー状の口器で植物の葉緑体を吸汁し、葉を黄化・萎縮させます。緑化樹や農作物の害虫として知られる種も多く存在し、近年では国内外で外来種も増えています。国内ではこれまでに63属182種が知られていました。

### 【研究の内容と成果】

九州大学と北海道教育大学の研究グループは日本各地で野外調査を行った結果、4種の日本新記録種を発見し、寄主植物などの生態情報と合わせて記録しました。

韓国および中国で知られていたエンジュヒメヨコバイ *Nikkotettix cuspidata* は福岡市早良区・中央区において街路樹のエンジュで発生しているのが確認されました。また、対馬においてライトトラップによって採集されました。福岡市では中国原産の移入植物であるエンジュで発生していることや、中国からのエンジュの生木の輸入が2017年以降急増したことなどから外来種と判断されました。

韓国原産で近年ヨーロッパ各地に侵入しているケヤキヒメヨコバイ *Tautoneura polymitusa* は東京都練馬区・杉並区において公園木のケヤキで発生しているのが確認され、都市部でのみ採集されたことなどから外来種であることが示唆されました。

ヤチダモドリヒメヨコバイ *Hebata (Signatasca) fissurata* はこれまで韓国と中国から確認されていましたが、今回、北海道と対馬から初めて発見しました。北海道ではヤチダモから多数の個体が採集されたため、本種の寄主植物である可能性が高いと考えられます。

ニセウスグロヒメヨコバイ *Aguriahana sichotana* は極東ロシアに生息することが知られていましたが、今回、北海道と長野県の針葉樹林帯から初めて発見しました。

### 【今後の展開】

ヒメヨコバイは植物の葉を黄化・萎縮させるほか、ハニードゥーと呼ばれるベタつく排泄物によりすす病(※3)を誘発させます。また、この排泄物は道路や車を汚す被害をもたらす場合もあります。現状、今回発見された種ではこのような被害は確認されていませんが、他の種を含めた今後の継続的な調査により発生状況や侵入地域を把握し、被害の発生に備える必要があると考えられます。

### 【参考図】



エンジュヒメヨコバイの生息地  
(福岡市早良区室見)

### 【用語解説】

(※1) 日本新記録種

すでに国外で名前がつけられていた種が日本で新たに見つかったときに使われる用語。新種とは異なる。

(※2) 頸吻亜目

セミ、ヨコバイ、ウンカ、ハゴロモ、アワフキなどが含まれるグループ。

(※3) すず病

おもにアブラムシやカイガラムシなどのカメムシ目昆虫の排せつ物を栄養源として黒いすすのようなカビが植物の葉や枝に生える病気。植物は光合成を妨げられるために、成長が弱まる。

【謝辞】

本研究は JSPS 科研費（JP24KJ1813, JP23K11502）、対馬 SDGs 研究助成 2024（No. 22）の助成を受けたものです。

【論文情報】

掲載誌：Zootaxa

タイトル：New records of four typhlocybinae leafhoppers (Hemiptera: Cicadellidae) from Japan

著者名：Yutaro UEHARA, Naomichi OHARA & Shigeru OKUDERA

D O I : 10.11646/zootaxa.5814.1.9

【お問い合わせ】

九州大学大学院農学研究院 教授 紙谷聡志（カミタニ サトシ）

TEL : 092-802-4744

Mail : kamitani@agr.kyushu-u.ac.jp